

鳥取大教育

堀内 かおる

【目的】1994年3月に実施した調査の結果から、鳥取県下の小学校における家庭科の学習指導は、第5・6学年の学級担任の教諭や学級担任外の教諭、低学年の学級担任の教諭、教頭等によって行われており、担当者は女性に偏っていることが既に明らかにされている。このような傾向は全国的なものでもあり、家庭科担当者の家庭科への関与の実態は、担当者の学校内における役割・地位によっても異なるものと考えられる。したがって本研究は、家庭科の学習指導に関する学校内外での活動のための時間を〈家庭科への関与時間〉と定義し、生活時間調査を行い、教師の生活行動と家庭科への関与の実態を明らかにすることを目的とした。

【方法】鳥取県下の小学校27校の第5・6学年の学級担任の教諭および家庭科担当者全員を対象として調査への協力を依頼し、承諾の得られた55名に対して、家庭科の授業日とその前日、およびその翌日の合計3日間についてプリコード方式による生活時間調査を実施した。調査実施時期は1994年11月～12月、調査票の配布・回収は郵送によって行った。

【結果】本報告では対象者の中から現在家庭科を担当している女性教師について、分析を行った結果を取り上げる。①教師らは家庭科の授業日に授業の準備、後片付け、評価のための活動にそれぞれ平均20分あまりの時間をかけていた。これらの時間量の総計は、勤務時間全体の約1割を占めていた。②平日1日のうちで学習・研究にかける時間はおよそ1時間、家庭科の授業日の前日には授業の教材研究に20分間を当てていた。③家庭科の授業日の出勤・帰宅時刻の平均値は、それぞれ午前7時41分、午後6時31分であった。